

第1回 京都エリア観光渋滞対策実験協議会 議事概要

日時：平成30年2月7日（水） 17：30－19：00

場所：国土交通省京都国道事務所5F会議室

議事要旨

1. 協議会の設置について

- ・協議会の設立趣意書や規約及び会議資料と議事概要は後日公表することなどを確認の上、設置が確認された。
- ・会長には京都大学大学院工学研究科 宇野 伸宏 教授が選任された。

2. ICT・AIを活用したエリア観光渋滞対策について

- ・エリア観光渋滞対策の概要と実験実施地域の選定結果、新たな要素技術の公募の状況について確認された。

3. 京都市の提案内容について

- ・京都市からの提案内容について確認された。
- ・委員より京都市の観光交通の特性等について情報共有があった。
- ・誘導するエリアや制限するエリアにメリハリをつけ、観光交通をICT・AIを使って制御するべきとの意見があった。

4. ETC2.0データ・車両感知器データを活用した渋滞状況分析例

- ・既存の路側機から得られたETC2.0データ等の分析結果から、以下について確認された。
 - ・京都市域においては、年間平均でみると休日より平日の旅行速度が低い。
 - ・観光客の訪問が多い東山や嵐山周辺においては、平日より休日の旅行速度が低い。
 - ・東山地区においては、東大路通の東山五条交差点、祇園交差点を先頭として旅行速度が低下し、秋の観光期には旅行速度の低い区間同士が連続することで面的に広がっている。
 - ・嵐山地区においては、渡月橋交差点や松尾橋周辺で旅行速度が低下しており、交通規制による影響も生じている。秋の観光期にはこれら区間の連続した状況が発生している。
- ・渋滞解消を目的とするのではなく、まちの賑わいや歩行者の優先により、市民が満足する取組と認識するべきで、その前提のもと、ICT・AIの技術を最大限に活用していくべきとの意見があった。

5. 今後の進め方について

- ・東山地区・嵐山地区への車の流入・流出や流動の状況とともに人の流動・滞留の状況も把握するため、引き続き既存のETC2.0データ等による渋滞状況の分析を進めるとともに、可搬型ETC2.0、AIカメラ設置を検討することとなった。
- ・また、京都駅や東山地区・嵐山地区等の拠点間の移動状況の把握に向けて検討を進めることとなった。

6. その他

- ・会議資料と議事概要は京都国道事務所ホームページにおいて公表することとし、京都市ホームページからも接続できるようにすることになった。

以上